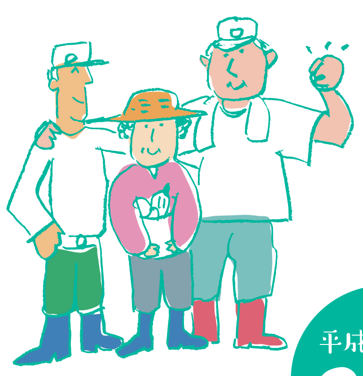
かわさき都市農業活性化

コト・モノ・ヒト News

川崎市農商工等連携推進事業

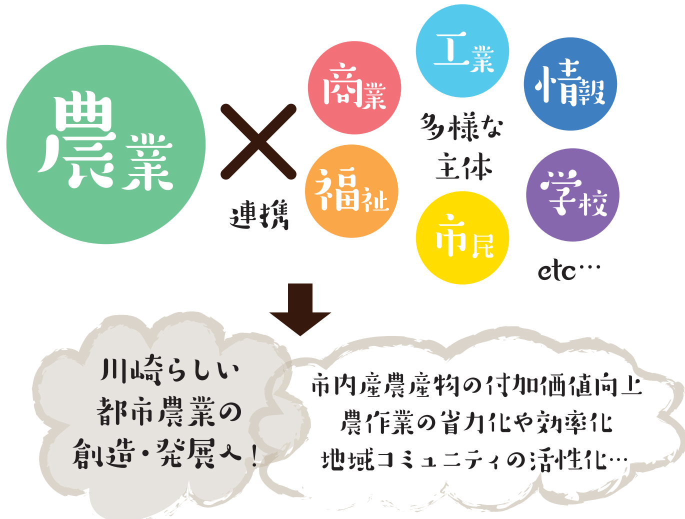
平成31年3月号



発行者：川崎市農業振興課

川崎市では、生産者と消費者の距離が近いというメリットを生かした営農や、農地の持つ多面的な機能を生かしたまちづくりが積極的に行われています。一方で、都市化の圧力や相続を契機とした農地の減少、農産物価格の低迷、担い手の減少や高齢化などの農業に関する様々な課題も抱えています。

これらのメリットや課題を踏まえ、農業者が、商業者、工業者など、多様な主体と連携することによって、都市農業の可能性をさらに広げることを目的に、平成28年度から「都市農業活性化連携フォーラム」、「モデル事業」、平成29年度より「都市農業活性化連携部会」を開催してきました。



平成30年度の取り組み

本年度の取り組みにおいて、「連携フォーラム」では、新しい流通システムの紹介や、生産者と市民の多様なつながりの必要性が示唆され、「連携部会」では、不動産という新しい切り口で農地を考える機会をつくることができました。

また、「モデル事業」には5つの事業が採択され、多様な主体が生産者と交流しながら様々な商品やPRツールを開発するなど、都市農業ならではの取組が実現できました。

さらに、昨年度の連携部会で話し合われた、「飲食店で地元野菜を使ってほしい」、「もっと便利で魅力的な野菜の自動販売機がほしい」といった意見について、具体的な取組が行われるなど、これまで以上に広がりを見せた一年となりました。

連携フォーラムの様子

連携部会の様子

モデル事業の発表

レストランイベントの様子

お問合せ
川崎市 経済労働局 都市農業振興センター 農業振興課 農政係
住所：〒213-0015　川崎市高津区梶ヶ谷2-1-7　JAセレサ梶ヶ谷ビル2階
TEL　044-860-2462　FAX：044-860-2464

■パネルディスカッションのまとめ

市民の「コミュニケーション力」を活かしてつなぐ

丸木氏：人が人をつなげる、つながる原動力は、皆で**思いを共有し、信頼関係を構築**していくという話がありました。そして、互いにメリットがあることや、得意なことを地域に生かしていけるよう、**コミュニケーションをデザイン**していくことが大切です。そのような**デザイン力をもつ市民**がたくさんいるので、今日のような場でつながっていくことが必要ではないでしょうか。

参加者アンケートより
- 試食がおいしかった！
- 一つひとつのモデル事業の取り組みが興味深かった。ワクワクした。
- 三方よしのアイディアが大切。
- パネラー同志のディスカッションがほしかった。
- グッドファーマーはどういう基準で選ばれるのか、ソワソワした。

3 事例紹介　農商工等連携の具体化事例報告　昨年度連携部会のアイディア検討報告会より

昨年度の連携部会で出た「もっと便利で魅力的な野菜の自動販売機がほしい」の具体化事例として、株式会社アルファメディアの小湊氏より、既存の自動販売機にセンサーを取り付け、農産物の売れ行き状況などを把握できる取り組みを紹介いただきました。※

また、「飲食店で地元野菜を使ってほしい」の具体化事例として、株式会社 GREET（武蔵新城ビストロキューオーナー）の長洲氏からは、地元生産者と連携して実施したレストランイベントの取組について、紹介いただきました。

事例紹介　小湊氏、長洲氏

※農産物の自動販売機については、川崎市経済労働局企画課が実施する、平成30年度川崎市「生産性向上・働き方改革モデル創出事業」に採択され、自動販売機のIoT化を進めています。

参加者アンケートより
- 自動販売機について、実用化を期待！ニーズがあると思う。マナーアップ向上の取り組みと自動販売機のコラボも面白そう。
- レストランイベント、同じ野菜でも食べ方によっていろいろ楽しめるのが面白い。どんな効果があったのか、来店者の声も知りたかった。

4 全体講評・閉会

政策研究大学院大学教授の株田氏より、「川崎市の強みは、食べる人と作る人だけでなく、クリエーター、デザイナー、ICTの企業など、**多様な市民が食に関心を持ち、貢献したいという力**ではないでしょうか。昨年度移転してきた農研機構生研支援センターとも連携しながら、川崎らしい取り組みを期待しています」との講評をいただきました。

全体講評
株田氏

閉会あいさつ
都市農業振興センター所長

5 交流会

フォーラム後に川崎市産業振興会館の4階に移動し、46名が集まり、交流会を実施しました。

モデル事業成果パネル展示

飲食の販売

交流会の様子

交流会の様子

お知らせ
- ●かぼちゃのピューレに関するお問合せ：（株）社会空間研究所　ias@shaku-ken.co.jp
- ●カワサキカレーパンに関するお問合せ：一般社団法人カワサキノサキ HP　http://kawasakinosaki.or.jp/
- ●ポイ竹活動に関する情報：みどりなくらしブログ　http://midorinakurashi.blog.fc2.com/
- ●くろかわのアスパラガス ブランドブック、レストランウィークに関するお問い合わせ：トビラ株式会社 044-455-5032
- ●「かわさき農のマナーUP」に関する情報：「まちの畑に親しもう」HP　http://machinohatake.net/

第6回かわさき都市農業活性化 連携フォーラムを開催しました

平成 31 年 1 月 28 日（月）に、川崎市産業振興会館にて、「第 6 回かわさき都市農業活性化連携フォーラム」を開催しました。出席者は 93 名で、農業者をはじめ、商業者や工業者、市民の方々など、多様な主体の皆様に御参加いただきました。

会場全体の様子

主催者あいさつ 福田市長　来賓あいさつ JAセレサ川崎 梶氏

1 特別講演 やりがいのある農業を実現する、生産者と需要者をつなぐ流通システム

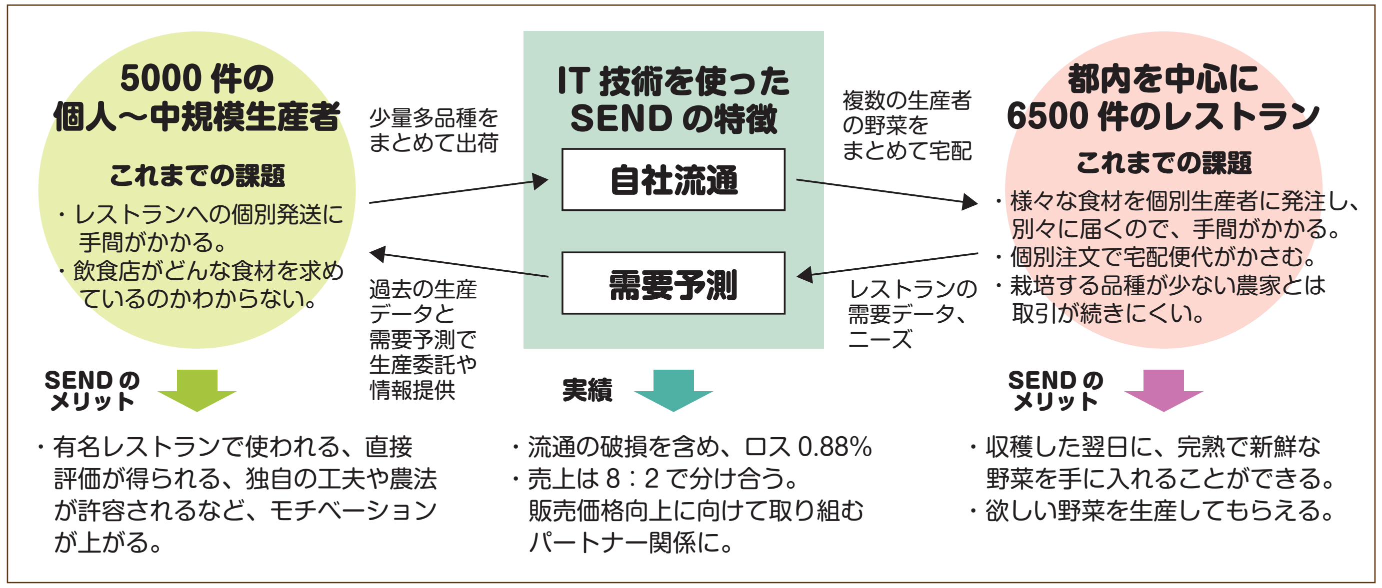
プラネット・テーブル株式会社 Founder/CEO の菊池 紳 氏より、IT 技術を使って生産者とレストランをつなぐ「SEND」のシステムについて紹介いただきました。

時代とともに消費者やレストランが求める食材が変化しており、「SEND」はそういう需要者のニーズを様々なデータを踏まえて情報提供し、生産者とともに売上を上げていく仕組みとなっています。（下図参照）

SEND を利用している地方の生産者さんが、自分の野菜を使っている都内のレストランに息子さんを連れて行った時、息子さんはシェフがお父さんにあいさつしている姿を見て、脱サラして就農を決めたと言います。そういった、後継者が一人でも増えていくことがプラネット・テーブルの目標のひとつとなっていると菊池氏から話がありました。

また、最後に、川崎市でも小さな「SEND」が作れたらというご提案をいただきました。

SEND の仕組みのイメージ（講演内容から整理したもの）



特別講演　菊池氏の発表の様子

参加者アンケートより

- 次世代のビジネスモデルと思っていたことが実現していることを知り、とても良い刺激になった。
- ぜひ使ってみたいと思いました。
- 流通事業者と生産者が一緒に価値を高めていくことが興味深かった。
- 良い点は理解できたが、どんな課題があるのか？

2 パネルディスカッション モデル事業の実施状況報告「生産者と消費者をつなげるしくみ」

今年度のモデル事業（5つの事業）の実施状況を報告するとともに、生産者と消費者をつなげる仕組みについて、ディスカッションしました。各モデル事業者が開発した加工品の試食も行いました。

■コーディネーター
丸木 英明 氏　株式会社アール・ピー・アイ ／ マネジャー

■モデル事業者
早野地区「かぼちゃ加工」モデル実践事業
守谷 敬治 氏　早野農地管理組合
山西 冬彦 氏　株式会社社会空間研究所　代表取締役

カワサキカレーパン
山本 美賢 氏　一般社団法人カワサキノサキ ／ 理事

「くろかわのアスパラガス」ブランディング事業
関川 房代 氏　トビラ株式会社 ／ コーディネーター

未利用資源を使った商品開発事業
堀　由夏 氏　NPO 法人みどりなくらし ／ 理事長

じもとクリエイターによる「かわさき農のマナー UP」プロジェクト Part2
村瀬 成人 氏　株式会社ノクチ基地 ／ アートディレクター

■モデル事業を取り組むにあたって大切にしたことは？

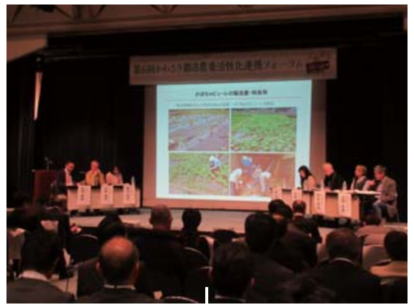
山本氏：カレーパンの開発では、生産者、加工者、販売者など、誰かが無理をすると疲弊して続かないので、**「三方よし」**の考え方を大切にしました。

関川氏：くろかわのアスパラガスの認知度向上のブランディングを進めるに当たり、**生産者の方の気持ちを、デザインにどう生かすかという点**に心を配りました。

堀氏：ポイ竹を作る各過程で、参加者が**自分ができること、得意なこと**を出し合って作っていけるよう、気を配りました。

村瀬氏：農業活性化だけでなく、地域の皆で川崎のことを考えていけるよう、**地域のデザイン力を高めていく**ことを大切にしました。

山西氏：**付加価値をつけて高く売るためにどうすればよいか**、また、**早野産の野菜を知ってもらうこと**を大切にしました。



パネルディスカッションの様子

丸木氏 / 試食

■どのような人たちと、どのようにつながりを作りましたか。

山本氏：本事業を通じて生産者、料理家など関わっていただいた皆さんと、居酒屋でお寿司を食べながら**腹を割って色々な話**をしました。互いの仕事に対するアイディアを出し合うなど、つながりが広がってきていることを実感しました。

関川氏：アスパラガスに関わる方たちと話をする**機会を行政の方に設けて**もらいました。これまで農業に関わったことがなく、ゼロから関係を築いていくところですが、**実際に会いに行くことの大切さ**が身に染みました。

堀氏：各人の得意なことを発揮し、皆で仕事ができたことで**メンバーが仲良くなり、その後の地域イベントでも助け合いながら**行えました。

村瀬氏：農のマナーアップを啓発するホームページの中で、**グッドファーマーの取材**をしており、それがつながりになっていると思う。

守谷氏：家庭菜園を試したい方や小規模でもできる IT を活用した農業など、**色々な方と接して**みたい。

山西氏：かぼちゃピューレの**試食会や菓子店等への訪問販売**を行った結果、生産者と事業者の方がつながる可能性が出てきた。**顔の見える関係の構築**がうまくできると、新しい農業につながっていくと感じました。

次ページへ続く

山本氏 / 関川氏

堀氏 / 村瀬氏

守谷氏 / 山西氏